

横谷さんのバイカー史は、そのまま友人たちとの交友録でもある。ちょうど20年前にハーレーを手に入れて以来、そばには必ず愛機の排気音と共に多くの仲間たちの笑顔があった。ハーレーを入手して間もない頃の、フルノーマルのFXRを前に笑うヒゲの横谷さん(写真・右上)。これが何れもかのスタートである。盟友・安倉氏(セッション横浜・前会長で故人)と横谷さんは常に一緒にいるイメージしかないほど、どこでも2人ワンセットだった(写真・左)。



16歳で免許を取ってから45年間という長い歳月を、ずっとバイクに乗り続けてきたという横谷さん。そのうち四半世紀の25年が国産バイクで、20年がハーレーである。

「ハーレーはね、俺にとってもずっと高嶺の花だったわけだ。バイクに乗ってりゃさ、どんな子供でもハーレーって名前くらい知ってるでしょ。俺は……25年ずっと憧れてたわけじゃないけど、まあ憧れてたわけだ。それが40歳になる頃にドルが安くなった時があった。いきなりハーレーが安くなったんだ。こりゃもしかしら買えるかもと思って女房に相談したら買ってもいいって言っからさ。その時買ったハーレーをずっと乗ってるんだよ。途中で買い換えようとは思わなかったんだ。まったくそんな気持ちにはならなかった。どうしても走った分だけ愛着が湧くからね。」

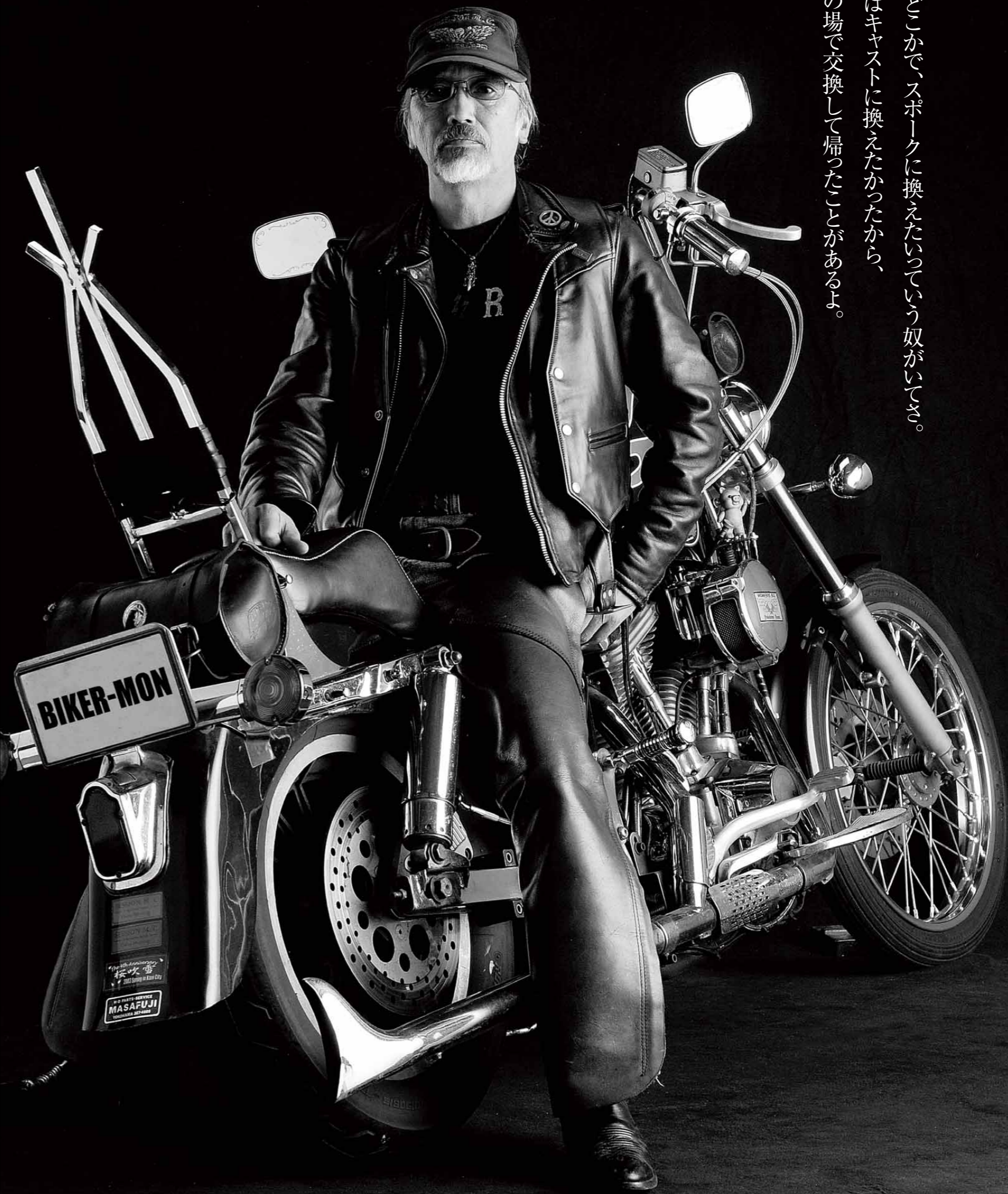
「これはそのまま使った分だけ愛着が……」と、横谷さんが使っているモノに関しても当てはめて言うことができる。が、しばらくハーレー談義を続けたい。

「最初はさ、FXRっていうのはチョッパーにはならねえって言われてたんだよ。いわゆるカッ飛び系。せいぜいアレン・ネスのパーツをくっつけるくらいかな。でも仲間とワイワイ話しながら、「ケツを落としたり前を延ばしてもおかしくないんじゃないか」とか言うし、もううちに「ハーレーダビッドソン」とマールポマン」って映画が出てさ。あれFXR

横谷徳人

61歳。1948年(昭和23年)生まれ。岩手県久慈市出身・神奈川県横浜市在住。高校卒業と共に就職のため上京。以来18歳から勤めた土木業を定年退職。「セッション横浜」創立時からのオリジナルメンバーで、安倉氏の後を継いで会長を務める。愛車である'89年式FXRとは20年の付き合い。

セッションキャンプ。「20年とまではいかないけど随分長い間やらせてもらって……(中略)また再開できるように頑張ります」とは本人の弁。



昔どこかで、スポークに換えたいっていう奴がいてさ。俺はキヤストに換えたかったから、その場で交換して帰ったことがあるよ。